

2025年
(令和7年)
5月

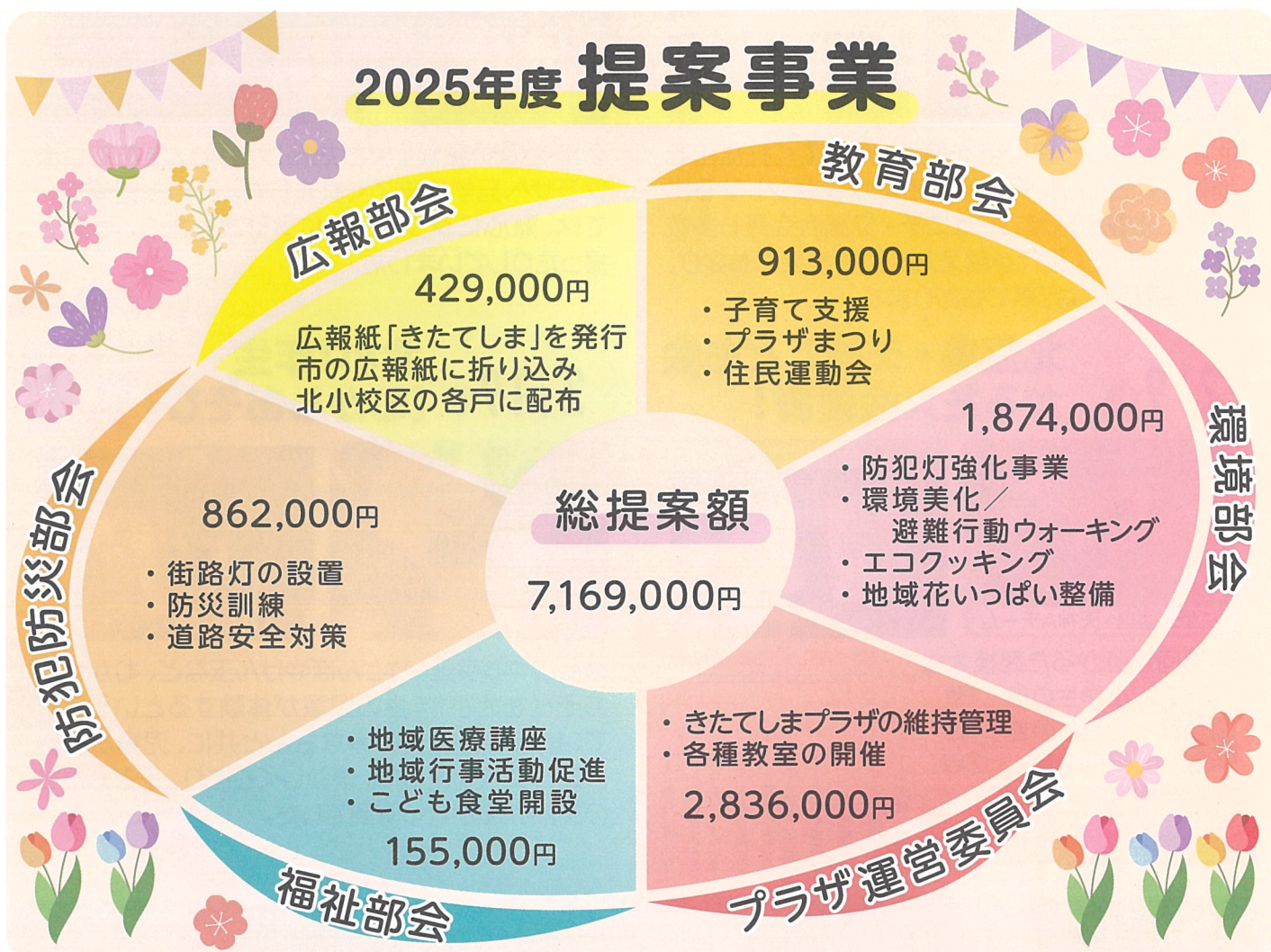
北豊島地域コミュニティ推進協議会広報紙

きたてしま

第76号

■発行人／永嶋 康夫 ■池田市
豊島北2-2-18 きたてしまプラザ
■電話／072-761-8230

2025年度 提案事業



どうぞ
ご参加を！



きたてしまプラザ教室 (コミュニティ推進協議会主催)

教 室 名		開 催 日	時 間	講 座 料
きたてしま文庫		開 館 日 全 日	9:00~17:00	無 料
う た う プ ラ ザ		第1・第3火曜日	13:30~15:00	毎月200円 楽譜代実費
気 功 護 身 術		第1・第3水曜日	14:00~15:00	毎月200円
囲 碁 将 棋 教 室		第1・第3火曜日 毎 週 土 曜 日	13:30~16:30	毎月200円
ロケット キッズ	あそびの広場	毎 週 木 曜 日	10:00~15:00	1 回200円
	英語リトミック	第 2 木 曜 日	10:30~11:30	
ス マ イ ル ン		毎 週 金 曜 日	10:30~12:00	

会員募集中!

自分たちのまちは、
自分たちでつくる

北豊島地域コミュニティ推進協議会の会員になって
地域発展のために力を貸してください。
入会申込は、きたてしまプラザ事務所へ

1/29(水)

花いっぱいプロジェクト出荷式



北小3年生と一緒に苗を植え、育ててくれた花を地域やこども園、保育園などにプレゼントする出荷式に北豊島地域コミュニティ協議会会員も多数参加しました。世代を越えた交流の機会にもなり、毎年、楽しい行事でもあります。

1/30(木)

北小2年生 [まちたんけん]



2年生の児童が[まちたんけん]で、きたてしまプラザへ見学に来てくれました。みんな質問をしては、熱心にタブレットにメモをしたり、写真を撮ったりしていました。

2/9(日)

北豊島・天神こども会 かるた大会優勝!



左が北豊島・天神Aチーム



第48回親睦かるた競技大会

小学生の部 1位
中学生の部 1位
一般の部 2位

優勝 北豊島・天神A



「こども会かるたクラブ」部員募集中
月2回土曜日 10:00 ~ 12:00
北豊島会館 富(072-762-5827)まで

2/19(水)

北小1年生 [むかしあそび]



めんこやお手玉、竹とんぼやけん玉など、むかしのあそびを北小1年生の児童が体験するということで、地域の各団体のみなさんと共に、児童と一緒に遊び交流しました。懐かしくもあり、子どもたちの笑顔があふれる時間でした。



お知らせ



豊島南地区に今年度の提案事業から防犯カメラが一基(豊島北1丁目19 中国道高架下)、市から一基の計二基が新設されました。



とよしまきた

きたてしま

てしまきた

豊島北? 北豊島? 豊島北? ここはどこ?

前編



この街に引っ越してきたら、市役所からは「とよしまきた2丁目です」と伝えられますよね。電柱などにもそのようにフリガナが記されているのに、小学校も中学校も、コミュニティ・プラザも「きたてしま」と呼ぶ。また、自治会に入会すると「てしまきた自治会」だという。さらに、「池田市歌」というのがあって、「豊島野(てしまの)のはて……池田♪」と歌われているし、市民文化会館の隣の公園は「豊島野(てしまの)公園」だ。正しい呼び名はどれだ! どれでも良いのか? 統一した方がよいとは思わないけれど、様々な呼び名があるのはなぜなのか? どうしてそうなっているのか探してみたい。

そこで、池田市役所のコミュニティ推進課へ行き、どの部署に行けばこの問題について教えてもらえるか尋ねたら、池田市教育委員会の社会教育課に案内された。また、翌日は豊中市教育委員会の社会教育課にも行き、いろいろと尋ねた。池田市も豊中市も、どの部署の担当者も親切で、『池田市史』、『豊中市史』などを出して丁寧に説明してくださった。

池田市の市制が施行されたのは1939年(昭和14年)4月29日。隣の豊中市の市制開始は1936年(昭和11年)10月15日。豊中市が3年早い。それまでは、どちらも大阪府豊島(てしま)郡下だった。豊島郡の発足は、1879年(明治12年)2月10日。郡区町村編制法の大阪府での施行にまで遡る。豊島郡は、南は神崎川から、北は池田まで。先に市制施行された豊中市は「豊島郡のほぼ中央にある」ということから、「豊中市」と名付けられました。その中心は旧能勢街道沿いにある原田神社。岡町商店街の隣です。その後に市制施行となった池田市は「豊島野のはて山は青く水も清らか…池田♪」と自然豊かで美しい街であることを市歌でも歌っている通り、豊島郡の最北端の街だったということです。

では、豊島北地区の呼び名が様々なのはどうしてなのか? 気になるころではありますが、今回はここまで。

次号をお楽しみに。(小林常昭)